

学会ニュースNo.95 トピックス

- | | |
|----------------------------|------------------|
| ・2009年度(第64回)総会・研究発表大会のご案内 | ・地理写真展作品の募集 |
| ・2009年度立正地理学会評議員会のお知らせ | ・第105回臨地研究会(第1報) |
| ・第104回臨地研究会(小諸)報告および感想 | |
| ・2008年度卒業予定の学生会員の皆様へ | ・会費納入のお願い |

会 告

○2009年度(第64回)総会・研究発表大会のご案内

2009年度(第64回)総会・研究発表大会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2009年6月6日(土)9:00より
2. 会場:立正大学熊谷校舎アカデミックキューブ(新校舎)
(当日、校内に案内を掲示いたします)
3. 総会委任状について
総会委任状は次号の学会ニュースに同封します。
4. 昼食
学生食堂が営業しています。
5. 懇親会
 - 1)会場:立正大学熊谷校舎学生食堂(ステラ)
 - 2)会費:一般 4,000 円、学生 2,000 円
 - 3)時間:17:00~19:00(予定)
6. 発表申込について
 - ・発表希望者は、3頁の発表申込用紙に所定事項を記入の上、2009年4月15日(水)までに集会委員会宛に送付して下さい。
 - ・メールでも受け付けております。申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。送付先アドレス:geosoc@ris.ac.jp
 - ・発表の形式は、口頭発表とポスター発表です。このほかに地理写真があります。いずれかを選択して下さい。
 - ・口頭発表は発表時間15分、質疑応答5分の合計20分です。
 - ・発表要旨集は作成しません。発表者は必要に応じて発表資料を用意して下さい。
 - ・スライドやOHPの利用をご希望の方は集会委員会までご相談下さい。
 - ・パソコンと液晶プロジェクターはこちらで用意します。プレゼンテーションソフトはWindows版PowerPoint2003です。Windowsで読み込めるフォーマットでUSBフラッシュ

ュメモリーに保存して、当日会場へご持参下さい。Mac をご使用の場合は予めご連絡願います。

- ・研究発表者は、研究発表要旨を必ずご提出下さい。研究発表要旨は『地域研究』に掲載いたします。『地域研究』の執筆要項にしたがってご執筆の上、大会当日に編集委員会までご提出下さい。

7. 研究発表大会プログラム・会場案内について

研究発表大会プログラム・会場案内については、次号学会ニュース(2009年5月発送予定)、ならびに学会ホームページ(<http://www.ris.ac.jp/geosoc/>)に掲載いたします。

8. 展示について

例年、地理関係出版社の出版案内や図書販売がおこなわれております。個人向けの展示スペースも確保しておりますので、地図等の展示を希望される方は、集会委員会までご照会下さい。

○地理写真展作品の募集

今年も立正地理学会総会・研究発表大会と同時に、地理写真の展示を開催いたします。会員諸氏が自ら撮影し、地域の特徴をよくとらえていると思われる写真の出展をお願いいたします。

出展者は2009年4月15日(水)までに3頁の地理写真申込用紙に所定事項を記入の上、集会委員会宛に送付して下さい。メールでも受け付けております。申込用紙と同内容を記載して次のアドレスまでお送り下さい。送付先アドレス: geosoc@ris.ac.jp

作品は、以下の様式にしたがって作成したものを持参し、大会当日に所定の場所へ展示願います。また大会終了後は、各自でお持ち帰り下さい。

【地理写真展 様式】

- ・A1(594×841mm)の台紙をタテに使用して下さい。
- ・写真の大きさ・枚数・貼り方は自由です。
- ・キャプションには、内容・場所・撮影日時など、撮影時の状況を付記願います。

(作品例)

テーマ	
氏名 (所属)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	
写真 (※1)	写真 (※1)
キャプション (※2)	

2009 年度 研究発表大会 発表申込用紙

・発表者氏名・所属(共同発表の場合は、発表者に○印をつけて下さい)
・発表題目:
・発表形式(↓いずれかを○でかこんで下さい) 口頭発表 ・ ポスター発表
・連絡先 氏 名: 住 所: 〒 — 電話番号: — — (自宅 ・ 勤務先) E-mail:

2009 年度 地理写真展申込用紙

・氏名(所属)
・テーマ:
・連絡先 氏 名: 住 所: 〒 — 電話番号: — — (自宅 ・ 勤務先) E-mail:

※申込用紙をコピーしてご利用いただくか、立正地理学会ホームページからファイルをダウンロードして下さい。

○2009年度立正地理学会評議員会のお知らせ

2009年度立正地理学会評議員会を下記の要領にて開催いたします。

記

1. 日時:2009年6月5日(金)18:00より
 2. 場所:立正大学熊谷校舎 アカデミックキューブ 6F 会議室
 3. 議題:1. 2008年度事業報告の件
2. 2008年度決算報告の件
3. 2009年度事業計画案の件
4. 2009年度予算案の件
5. その他(他に議題のある評議員の方は、集会委員までお知らせ下さい。)
- 詳細については、次号ニュースにて評議員の方に同封する出欠ハガキをご確認下さい。

○第105回臨地研究会のお知らせ(第1報)

第105回臨地研究会を下記の要領で行う予定です。詳細は次号の学会ニュースでお知らせします。会員の多数のご参加を期待します。

1. テーマ:今に残る利根川(荒川)洪水の痕跡—古堤防(中条堤)と水塚
2. 案内者:松尾 宏(株)日水コン
3. 実施日:6月13日(土)

○第104回臨地研究会(小諸)報告

2008年11月8日(土)、高木亨会員(立正大・非)の案内により、第104回臨地研究会が小諸市において行われた。テーマは「旧北国街道の町並み保全と地域活性化」であり、参加者は24名であった。今回の臨地研究会は、旧北国街道に沿って小諸市内の本町地区、大手地区、荒町地区、与良地区を巡る行程であった。

午後1時15分、一行は午前中に秋季例会が行われた本町地区の北国街道ほんまち町屋館(元味噌醤油醸造元家屋清水屋)をスタートした。ほんまち町屋館は、空き家になっていた清水屋が市民の保存運動によりよみがえったもので、現在は観光で訪れた人々の休憩場所や地域の人たちの様々な活動拠点として活用されている。続いて、旧北国街道を挟んでこの町屋館の向かいに建つ大塚酒造本店、そして、その裏手にある酒蔵(修理・修景事業中)を観察した。大塚酒造は江戸時代中期からの造り酒屋で、建物の二階が低く(厨子二階)、家の中は田の字の間取りで、昭和初期に改装されショーウインドウや腰壁のある格子窓がつけられていた。この裏手の酒蔵は約190年前のもので、「浅間嶽」「献寿」といった銘柄のお酒が醸造されている。その後、旧北国街道を外れ、大塚酒造本店と酒蔵に挟まれた馬場裏通り(武家地と町人地を分ける石垣が脇にある)から大手地区に入った。

大手地区は、江戸時代まで小諸城の一角であったが、1893年の信越線(現しなの鉄道)の開通により旧城内と切り離された。この大手地区には、大手門や明治から大正にかけての間屋・商家・蔵などが建ち並んでいる。大手門(四之門・瓦門)は、二層入母屋造の楼門で、1612年に小諸城主の仙石秀久が造らせた。明治時代には、町人に買い取られ門の下に部

屋が作られ、料亭や小諸義塾の仮教室(島崎藤村も教鞭を執った)として使用されたが、1993年に国の重要文化財に指定され、2001年からの修理・修景事業は2008年5月に完了した。また、その隣には明治時代の繭蔵「くらしかる浪漫館」(現在閉鎖中)があり、さらに道路を挟んで竹内木材・油権、繭問屋・小林金悟商店(修理・修景事業完了)、観光案内所(瀬戸物屋)などが建ち並んでいる。この大手地区一帯には、懐古園(小諸城跡)との分断をなくし連続性を取り戻そうとする再開発の計画があるという。

再び旧北国街道に戻り、大きな商家や問屋が建ち並ぶ本町地区の町並みを観察した。この本町地区には、田中ちようちん屋(本町最古の建物)、そば七(脇本陣代)、夢屋古美術店、「袖うだつ」が特徴の萬屋骨董店(旧小諸銀行)、「袖蔵」が特徴の大塚味噌醤油屋、つるやホテル(つるや旅館)、ギャラリーつたや(旧つたや旅館)などが建ち並んでいる。現在は江戸時代の建物17軒、明治時代の建物15軒、大正時代の建物が3軒残っていて、1958年の道路拡幅工事の際には、通りに面した建物の庇が0.9m程度切り取られたという。

続いて、町の東側の寺町を形成する光岳寺や海應院を観察し、その後、荒町地区・与良地区の街並みを観察した。荒町地区の柳茂商店は、1887年頃に建てられたもので、かつては深い庇があったが、1959年の道路拡幅工事の際に1m程度切りとられたという。与良地区は、慶長年間に与良平・古宿(現在の南城公園から千曲川までの一帯)、松井など近くの村々から農民や職人が集められて、小諸の城下町の一つとしてつくられた町である。また、高濱虚子にゆかりの深い町で、虚子庵は、1944年9月に虚子が疎開してきた際に住んだ家で、弟子が全国から訪ねてきたという。高濱虚子記念館は、虚子の生涯や小諸にいた頃の暮らしやゆかりの人々、そして虚子の俳句が紹介されている。虚子は与良町の田園散策を好み、そこを歩きながらたくさんの俳句を詠んだという。15時30分、北国街道与良館(旧家具屋松屋)前にて解散した。

限られた時間で行われた臨地研究会ではあったが、現在も進行中の修理・修景事業や地域活性化の様子を観察し、学ぶことができた。最後になりましたがご案内いただいた高木亨会員には、記して厚くお礼申し上げます。(編集委員 高橋公史)



写真1 小諸城大手門前にて(高橋公史会員撮影)

○第104回臨地研究会(小諸)に参加して

今回の臨地研究会には立正大学地理学科1年生が6人参加しました。近年、学生の参加が少ない中、真剣に話を聞いている姿をぜひ会員みなさんにも知って貰いたく、彼らの感想を載せることにしました。次回も多くの会員の参加を期待しています。

「長野県小諸市臨地研究会を終えて」

佐藤 亮太

今回の臨地研究会で私が注目していたのは、住民が街づくりに対してどのようなスタンスで向き合っているかということでした。私が今まで見てきたものは「街づくり」というよりも「街興し(おこし)」と言った方が的確で、あくまで街の経済発展がその根幹にあるものが多く、その土地の特産品を利用した土産物の販売や、観光名所を前面に押し出した印象を強く受けました。それに対し小諸市の街づくりは、実際の生活を含めた伝統的な家屋の保全、修復のみならず、公共の建造物を子供たちの憩いの場として利用していました。歴史や文化を守りつつも現在の人々の生活に密着し、上手くバランスをとった形で街おこしが行われていました。確かに地域の形成において経済面での振興はなくてはならないものです。しかし、それらを顧みず街づくりが行えたのは行政と住民の協力や、二者の連携があつてこそと感じました。

今回中心となって案内をしてくださった高木亨先生は「街づくりを楽しんで行っている」と述べておられました。実際に街の中を歩いた際も裏道や小道を通るなど、街を知り尽くしている様子がひしひしと伝わってきました。総じて研究会の方々からは地元への協力という言葉では片付かない何か強い思いが感じられました。そして、臨地研究会に参加して、街づくりに対する新たな視点を持つことができました。

「新・旧の調和」

清水 康志

11月8日、気温5℃という寒空の下、浅間山の麓に広がる長野県小諸市の巡検に参加した。私が持っていた小諸のイメージは、有名な懐古園をはじめとして、古い家が建ち、畑が広がっている田舎というものであったが、実際に現地を訪れてみると、古い家や商店を残しつつも、きれいな状態に保つために修繕が行われ、かなり新しい街並みを見ることができた。小諸という街は、埼玉県川越市の“蔵”の街並みと似ているということがわかった。規模は川越の町の方が大きい、白と黒の建物であるとか、木造の建物が多いといったように古い街並みが広がっているといった点で同じであると思う。また、修繕された古い公共の建物は児童館の役割を果たし、東京とは異なった独自のコミュニティー形成の場として活用されていることもわかった。

古い街並みを残すということは、「温故知新」という言葉があるように、子どもの頃から古いものに触れ、古いものの大切さを学ぶことによって、現代における「使い捨て社会」を批判する精神を養うことが一番大切なことではないのかと私は考えた。

最後に、今回このような臨地研究会に参加できたのは、地理学科の特権であり、とても貴重なものでもあると思う。今後も臨地研究会に参加して、知識の幅を広げ、授業などに役立てていきたいと考えている。

「まちづくり」

田村 健太郎

「まちづくりをしたい！」そんな思いで私はこの大学に入学しました。今回の秋季例会及び臨地研究会は「まちづくり」がテーマとなっていて、実際の「まちづくり」を視ることができる良い機会だと思い参加しました。

小諸の町は、中心である北国街道沿いの4つの町それぞれに時代や地区の特徴を表す昔懐かしい建物が数多く残っていて、土地の人々の生活の中に溶け込んでいました。それらの建物はただ自然と残ったのではなく、行政やNPO法人の働きによって取り壊しを回避させ、建物の保存・修繕をする活動によって町並み景観を守り続けています。たとえば、取り壊して市営駐車場になる予定だった建物を「町屋館」として保存し、市民同士や旅人との交流の場として活用しています。また、NPO法人小諸町並み研究会では『信州小諸 町並みデザインブック』や『信州小諸・城下町たんけんブック』などの印刷物も発行し、子供からお年寄りまで広く地元市民が自分の街を再確認・再発見して自分の街を好きになるきっかけを提供しています。

従来の「まちづくり」は、行政が主体となって進めていましたが、最近は、市民が主体となって、自分たちの「まち」を好きになり、まちづくりを「楽しむ」ようになっています。行政に任せっきりでなく、「自分が

住んでいるまちはそのような所なのか」「いったいこのまちどうしたいのか」など、市民一人一人の気持ちや意識が今後のまちづくりにとって大切になると感じさせてくれる一日でした。

「むかしの面影」

鳥海 真弘

私は以前に、小諸を訪れたことがあります。しかし、時間に余裕がなく、小諸駅構内を急いで歩いてだけで、どのような街かを知ることができませんでした。巡検という形で再び訪れ、街の建築物等を見て、私は「大変もったいない事をした」という衝撃を受けました。小諸の街道沿いには、現代の建物に混じって洒落た和風の建物が多く点在し、半分過去に足を踏み入れたような不思議さがありました。また、この町並みが、行政や有志住民の取り組みによって維持、拡張されていることを教わりました。これは、大変面白いことでした。前回、ひとりですっきり見る機会を逸したことを大変惜しく感じます。

かつて、日本の大部分の地域には小諸のような木造建築が立ち並ぶ町並みが普遍的に存在していたと聞きます。しかし、古くから栄えた街でもむかしの面影が全く無いこともあります。人々の尽力によって今も、むかしの面影が濃く残る小諸の町並みは他の大多数の地方都市と違って個性的で強い魅力を発していると感じました。私は勝手ながら小諸を典型的な地方都市と認識していました。しかし、実際は古い建物が随所に残り、それを守りつつ生かしていこうとする取り組みの強い、町並みへの誇りとこだわりが強い街だと感じました。

「新たな視点」

浜田 大介

小諸と言えば懐古園が有名ですが、それ以外にもいろいろ見どころがあります。例えば昔の北国街道上の道路沿いの建築物は、江戸時代の風情を感じさせる色と造りに改修されています。この統一された通りは小諸が昔、北国街道の宿場町であったことを感じさせてくれます。また、味噌、醤油造りが盛んで、町内に多くの味噌蔵が点在しています。

こういった様子は、車窓から流れる景色を眺めているだけではなかなか発見できません。また、街を歩いて初めて発見できるものがたくさんありました。例えば、美術館までの距離を表示した案内表示板は、屋根の部分が太陽電池パネルになっており、有効活用されている。また、小諸には俳句の巨匠、高浜虚子が滞在し多くの作品を残していることを活かし、町のいたるところに市民、観光客に俳句をたのしんでもらうための「投句箱」が設置されている。

今回巡検に参加し、歩いて見ることの素晴らしさ、面白さに気づきました。普段は車で通過してしまうようなところをじっくり見たり、立ち止まって考えたりできる巡検はとても勉強になりました。

「街を残す」

吉池 隆

小諸市は、父の実家の隣町のため、この巡検に参加しました。この街には古い蔵造りの家や商店が多く、新築でも蔵造り風の建物に仕上げられ、古い町並みが広がっていました。それは、他の街とは違う宿場町の独特の風景でした。これは、行政やNPO法人、そして地元市民の働きによって成り立っています。

私は今まで、この街を「寂れている」という間違っただけの思いで見えていたのですが、「昔の建造物や文化を保持している」ことを今回の巡検で知りました。そして、「街を作る」だけでなく、「街を残す」事も大切だということを改めて学びました。今回の巡検をきっかけに、これからの大学生活の中で地理学の視野をさらに広げ、地理学と積極的に向き合っていきたいと思います。

○今年度卒業予定の学生会員の皆様へ

この3月で卒業される学部4年生・院生の会員の方々には、来年度以降も会員として継続されることをお薦め致します。引き続き立正地理学会会員として、学会活動にご参加下さい。学会ニュースやホームページなどで、学会活動の他、地理学教室の情報などを提供していきます。会員継続をぜひご検討下さい。

継続される方は、事務手続きの都合上、5月15日までに年会費をご納入いただければ幸いです。他大学や大学院などに進学される方は学生会員(2,500円)、それ以外の方は一般会員(4,000円)となります。郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

○会費納入のお願い

2008年度分会費が未納の方は、お早めにご納入下さい。過年度分会費が未納の方は、過年度分もあわせてご納入願います。会費および郵便振替口座の番号・加入者名は下記の通りです。

一般会員 4,000円 学生会員 2,500円
00130-8-13453 立正地理学会

なお、他の金融機関からお振込みされる際にご指定頂く口座は、以下のとおりとなります。お振込みの際は、振込人氏名が会員ご本人の氏名となっておりますことをご確認頂きますよう、お願い申し上げます。

銀行名	ゆうちょ銀行
金融機関コード	9900
店番	019
店名(カナ)	〇一九店(ゼロイチキュウ店)
預金種目	当座
口座番号	0013453
カナ氏名(受取人名)	リッショウチリガクカイ

※学会ニュースや地域研究などの送付先の変更が生じましたら、お早めに立正地理学会までご連絡下さいますよう、よろしく願いいたします。最近、払込取扱票の払込人住所氏名の欄が未記入のものが多く見受けられます。とくに、住所変更のご連絡がなく、新住所のみご記入され、氏名のご記入のない払込取扱票の対応に苦慮しております。何とぞ、ご入金の際には氏名欄のご確認をお願いいたします。

(庶務会計委員会)

編集後記

4月より立正大学地理学科の研究室が、新校舎のアカデミックキューブに移転します。2009年度の大会ではみなさんにもぜひアカデミックキューブを見て頂きたいのですが、さまざまな調整中のため、今回はお約束が出来ませんでした。次号にはお知らせできるはずです。

地図室のみならず、各研究室の引っ越し作業は膨大で、2月から作業に追われる毎日です。同時に新年度準備も行わなければならない、慌ただしいことこの上ない状況です。現在、私の部屋にはパソコンのみが鎮座し、そんな中で学会ニュースを作成しています。次号は新研究室からお届けいたします。

(広報委員・原 美登里)

立正地理学会ニュース No.95

2009年3月16日発行 編集者 立正地理学会広報委員会
発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内
電話 048-539-1670 振替 00130-8-13453